

学校法人 埼玉福祉学園 埼玉福祉専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【平成28年5月25日実施】

平成27年度自己点検自己評価(平成27年4月1日～平成28年3月31日)による

平成27年度自己点検自己評価(平成27年4月1日～平成28年3月31日)による						評価者ご氏名 —		
大項目	点検・評価項目	自己評価		現状の取組状況	課題	今後の改善方策	学校関係者 評価委員の 評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3	適切…2					
1 教育 理念 ・ 目的 ・ 育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3		教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を明文化している。 また、学園の建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学校・学科のイノベーションを図っている。	特になし		3.0	・建学の理念のもと、地域で活躍する職業専門職を育成するという目的が明確である。 ・業界ニーズを意識し、焦点をぼった目的・課題・将来構想が持っている。 ・実習巡回時のヒアリングや指導に力を入れる姿勢は非常に良い ・要望として、埼玉で就職というコンセプトに沿い、学生が少ない県北などの地域から、入学・就職への対応を是非お願いしたい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。また、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会等業界団体とも連携している。	特になし			
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	特になし			
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3		事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし			
2 学 校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		諸環境の変化に対応できるように事業計画については毎年中长期(5年)と、短期(1年)を展望し、作成している。事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、毎年3月の初旬に学校の事業計画の研修を行い、全教職員へ周知徹底している。	特になし		3.0	・業界と共に歩む運営方針が明確に学校運営に反映されている。 ・学校運営における方針、計画、組織化、意思決定システム、業務の効率的運用等、制度化が良く図られている。 ・方針、計画、システムが職員に理解されているか、生きたシステムになっているか、検証が必要 ・他校卒業生と比較し、人間教育や職業人教育がされていると感じる。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		・事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム	「予算=決算」とするために入学者目標を達成することが課題	・環境変化に合わせた学科のイノベーション ・業界と共に「福祉人材確保」に取り組むこと		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3		理事会・評議委員会は年5回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし			
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3		学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3		理事会・常務会・拡大常務会・EAST戦略会議・各校運営会議・部署会議が年間でスケジュール立てしてあり、上位方針を伝えている。	特になし			
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3		AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また近年ではiPadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。	iPAD入力のミスが時折あり修正する必要がある。	講師へのiPad使用の勉強会、個別指導		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	教育課程編成委員の皆様へ学習成果(卒業研究など)を見て頂くこと		2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を巻き込んだ活動が見られ、十分に社会の評価を得られていると感じる。</li> <li>・学生からの評価も参考に先生への指導やフォローをされている、とのことだが、事務局として、学生に重きを置き過ぎず、中立な立場に留意して先生方へのフォローをしてほしい。</li> <li>・授業アンケートのフィードバックと講師の資質向上を課題としているが、教育活動の基本なので改善を図りたい。</li> <li>・教育目標の達成、カリキュラム編成、授業、成績評価、資格取得指導等の制度化は良く図られている。教職員の業務や授業力の向上、学生の知識、技術等の能力向上、就業力やキャリアの向上にこれらの方針や制度が効果的に寄与しているか常に検証が必要。</li> <li>・介護福祉士国家試験は、新入生のレベル確保、在校生の試験対策が重要である。他校との差別化を図り、全校あげて対策に努力してほしい。</li> </ul>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。また、資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している	特になし			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。シラバス、コマシラバスも全ての授業で導入している。	特になし			
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、各種業界との行事、日常の実習巡回を通じて業界の意見を取り入れている。	特になし			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系だてた教育を実践している。	新入職員への周知徹底	学内における研修		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	前期・後期それぞれ1回学生による授業アンケートを実施している。	授業アンケートの講師へのフィードバックができていない。	フィードバック面談を学科長が行う。(期日を定める)		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。	特になし			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究の内容についてはレジメを冊子にしてまとめている。	特になし			
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	学園全体の国家試験対策センターの元、学内に国家試験対策室を設けて全体マネジメントしている。また、国家試験不合格の卒業後の支援体制は無料でやっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる合格率アップ</li> <li>・介護福祉士の国家試験導入に対する対策</li> </ul>			
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写しも確認している。また、教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。	特になし			
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	2	常勤職員については学園の研修、業界団体、養成施設協会など外部研修を通じて資質の向上に努めている。	非常勤講師への研修が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師会議内容の見直し</li> <li>・印刷物等による外部環境変化の周知</li> </ul>		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	2	教務部長、学科長、FDCを中心に教員集団の資質向上に努めている。	非常勤講師との連携についてはまだ課題があり協力体制が築けているとは言えない。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化 講師控え室の場所検討			
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は職員のPUBで随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士の合格率が高く、その指導力の高さに驚いている。</li> <li>・卒業生の転職理由、学校への要望など、定期的にアンケート調査などし学校運営に反映させてほしい。</li> </ul>
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較し、日々精査している。	特になし			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒後1年の離職調査を継続的に行っており、卒業生情報の集約に務めている。	卒業生の情報は元担任などの個人知が多く、情報共有やそれら活躍を学校案内等に出し切れていない。	情報共有のしくみの構築		

5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは定期的に会議を行い情報共有している。また、PUB内でも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携している。また就職活動マニュアルを作成しており学生指導している。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者への対応やフォローはできているので、その上での本人のための退学であるのならば、数字的な問題はないと感じる。</li> <li>・さまざまな学生支援体制が図られていることに敬意を表す。</li> <li>・卒業生の再就職支援、悩み相談など気軽に対応する体制は維持強化してほしい。</li> <li>・留学生について、入学生の確保で、就学ビザでアルバイトという状況に絶対すべきでない。</li> </ul>
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学数は開講以来数字で集約、分析している。また、学生相談室を設置し学生サポートとして担任と連携している。	全体指導の強化と一人ひとりに合わせた個別支援			
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が重度化しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。	精神保健福祉の専門の専任や非常勤講師と連携を組み対応策を検討していく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	2	現状留学生は年に1名いるかいないかの状況。介護職の就労ビザが認められるようになることを想定して留学生募集と共に受け入れ態勢を検討している状態。学園本部には留学生支援センターが設置されている。	留学生を受け入れた際の授業方法、実習受け入れの業界との連携	本部の国際センター、グループ校で留学生受け入れ実績の多い学校へのヒアリング等		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。学校独自の奨学金は今のところ制度としてはない。生活保護家庭や児童養護施設出身者に向けて制度を整えていく必要がある。	生活保護や児童養護出身者など経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。			
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、救命救急士、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。	特になし			
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし			
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	SCWクワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年15回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している。	特になし			
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに保護者との個別面談などを適宜実施している。保護者との連携に必要なキャリアデザイン・コミュニケーション科では保護者会を年4回実施している。その他の学科は全体説明としての保護者会よりも個別面談を重視している。	特になし			
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒後1年目の卒業生に対してキャリアアップ勉強会を実施している。再就職支援は個別に実施しており、成果を上げている。	同窓生主体の同窓会とはなっておらず、学校が主体となっている。	年度ごと、あるいは地域ごとに同窓会組織をつくり会合をもつなどして情報交換する。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	埼玉県老人福祉協議会と連携して「高齢者福祉研究大会」を実施。また「卒業研究発表会」、「日本の福祉現場力を高める研究大会」など業界連携している。	特になし				
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度おり、学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。	特になし				
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。	特になし		3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市型の地域行事をバックアップするなど尽力している。</li> <li>・地域の防災拠点としての機能を求められる可能性がある(建物、ボランティア等)。</li> <li>・防災マニュアル等の対応が整っている。</li> <li>・在校生と職員分の食料などの準備を早急にする必要がある。</li> </ul>
	6-23-1 学外実習、インターシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	現場実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、また実習指導者には事前に学校で研修を実施している。また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。学校行事は学園祭や地域行事、運動会など学生主体で運営を行っている。	特になし			
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。	非常時の食事や防砂グッズについて保管場所がなく準備できていない。	保管場所含め校舎使用について検討していく		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。非常時持ち出し用の名簿も職員室内においてある。	特になし			

7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識)	業界と連携して説明を続けること。高校教員向けの福祉セミナーなどの実施	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の中、学生募集に尽力し、一応の効果を挙げている。</li> <li>・"埼玉に埼玉福祉あり"、業界の信頼を高校へ</li> <li>・福祉、保育現場における低賃金の宣伝が強すぎ、募集に困難が生じている。高校教師や親へのアピールを工夫する必要がある。</li> </ul>
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。入学案内のほか、学科ごとに冊子を作り、正しい業界の理解、学校の理解が得られる工夫をしている。	特になし			
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし			
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	数値データは毎週行われる広報会議でチェックしながら分析、対策を打って、運営会議で報告をしている。また、財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし			
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの入学辞退の申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	定員充足と辞退の問題			
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	予算計画を実現できるように定員充足しなければならないが、ほぼ全学科定員充足できていない。	介護福祉士については分野の魅力の適正な広報、また学科内容のイノベーションを図りながら顧客目線で教育を改革していく。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算計画、執行、財務の透明性も十分である。</li> <li>・定員割れが続くと財務基盤の安定が図れなくなるため、学科再編、広報の力点変更等が急がれる。</li> <li>・時代に対応した中期計画を見据えた柔軟運営が必要</li> <li>・5年計画で予算を立てられていて良いと思うが、5年後の収入が今の約倍となっているのは、具体的な対策案とそれを踏まえた数字なのか。</li> </ul>
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし			
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし			
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし			
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし			

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはSNSの怖さなど含めコンプライアンスに関するITリテラシー教育を行っている。	特になし		3.0	・十分である
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、苑職員に対して個人情報保護の研修を実施している。 学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし			
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページで学校情報の公開、さらにツイッターやブログで教育活動を公開している。	特になし			
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県老人福祉施設協会と協同で高齢者福祉研究大会を実施している。</li> <li>・平成27年度より委託訓練生を積極的に受け入れている。(H27年度5名、H28年度9名入学)</li> <li>・埼玉県精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。</li> <li>・滑川総合高校に本校の顧問が定例で福祉授業を行っている。</li> <li>・クラーク高校とは年間を通じて福祉授業を本校で開講している。</li> <li>・ケアマネの講座など実施している。</li> <li>・地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。</li> <li>・日本の福祉現場力を高める研究大会を実施し、福祉人材不足、地位向上ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。</li> </ul>	特になし		2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアやゴスペルなど、学生を巻き込む活動をしており良いと思う。</li> <li>・新聞などのメディアの利用</li> <li>・「福祉現場力を高める研究大会」開催は有意義で素晴らしいが、業界や他校などを取り込めることができれば、発信力も高まると思われる。</li> <li>・開かれた経営体質に敬服</li> </ul>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	また、UWFからは日本での交流会も実施している。また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の国際センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	ボランティア専用の掲示板を設け、学生の参加を積極的に促している。	学生のボランティア活動の実績や実態把握までできていない。その情報の共有もできていない。	ボランティア報告書を提出してもらいファイリング、データ化する。		